学力向上にむけた教育委員会の今後の取組み
～平成２６年度　大阪府中学生チャレンジテストより～

１．貝塚市の現状

（１）大阪府と貝塚市の学力分布を比べて

○　教科、学年によって、多少ばらつきがあるものの、全体的な傾向として、低位層の割合が大阪府平均と比べて多く、高位層の割合が少ない傾向がみられます。

○　国語において、漢字の問題に無回答率が高く、漢字を正しく書く力をつける必要があります。また、相手に分かりやすく伝える力に課題があり、言語活動の充実が必要となっています。

○　数学については、関数の理解や説明する力に課題があります。

○　英語については、読みとる問題に無回答率が高い傾向があります。読む力をつける必要があります。

○　社会については考察し、適切に表現する力を問う問題に無回答率が高い状況でした。

（２）生徒に対するアンケートより

○　国語、数学、英語で「授業の内容はよく分かる」に肯定的な回答をした１年生の割合は大阪府の平均より低く、授業力の向上が必要です。

○　「理科の授業で，自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている」「理科の授業の内容はよく分かる」に、肯定的な回答をした２年生の割合は、大阪府の平均よりやや高い状況です。

○　「家で、学校の宿題をしている」に肯定的な回答をした生徒は７割程度であり、昨年（小学校６年生）の全国学力学習状況調査の同じ質問で肯定的な回答が９割以上であったことから、小中学校の連携の課題が浮かびあがっています。

２．今後に向けて

○　授業力向上のために、「めあて・ふりかえり」を重視した授業づくりと「学校活性化計画」をもとにした授業力向上の学校体制作りを支援してまいります。

○　言語活動の充実が課題であることから、アクティブラーニング（話し合い活動や班活動、探究型の授業）を推進してまいります。

○　低位層の底上げのために、習熟度別指導など、きめこまかい指導を推進します。

○　宿題をはじめ自学自習力をつけるために、放課後学習の充実や大学と連携した予習の在り方についての研究を行います。

○　小中連携・一貫教育を推進し、小学校と中学校における系統的な学びの内容や指導法について実践してまいります。